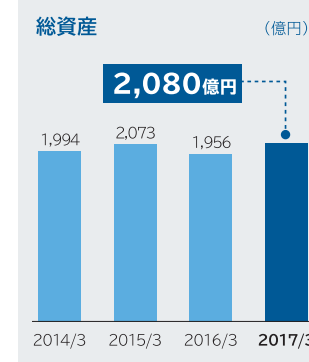
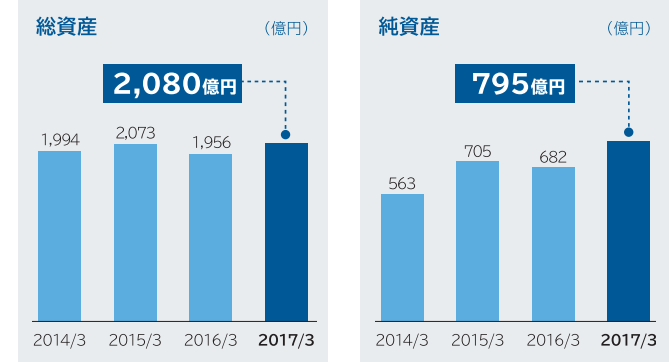
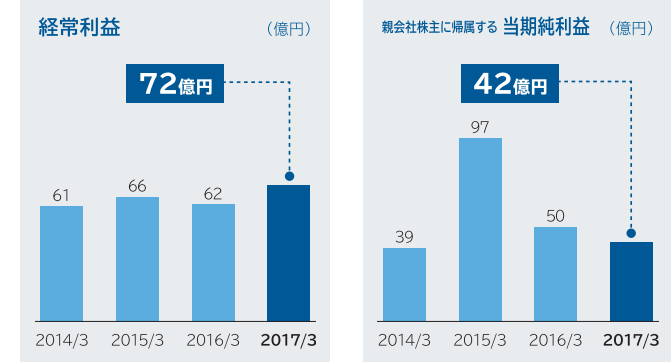
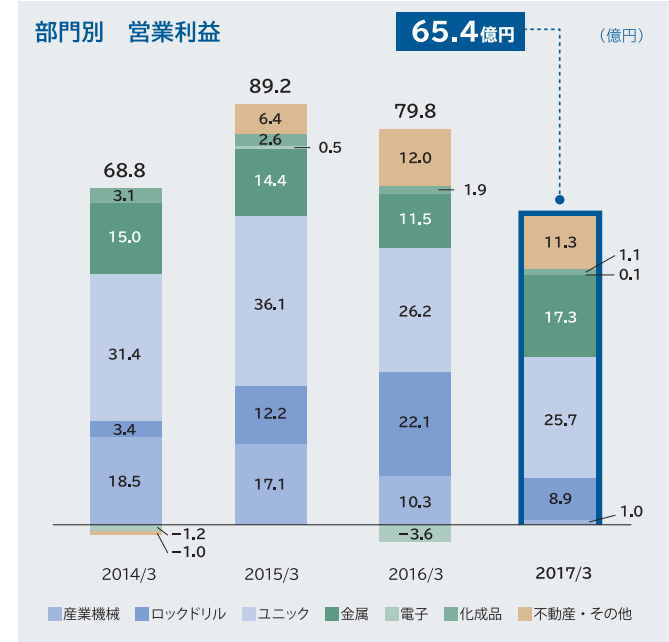
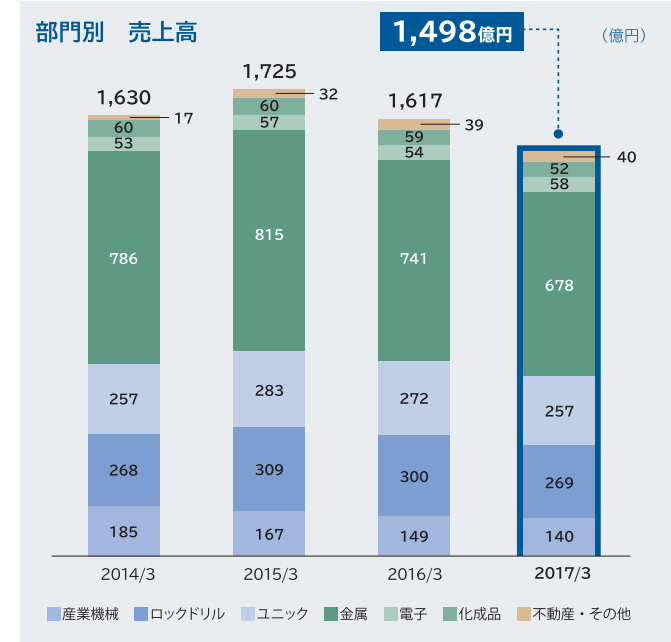


## 財務ハイライト

売上高は1,498億29百万円(対前期比119億69百万円減)、営業利益は65億45百万円(対前期比14億43百万円減)となりました。産業機械部門の陸前高田市での工事完了等による減収と、ロックドリル部門の海外建設需要減退による出荷減などにより、主に機械事業で減収減益となりました。経常利益は受取配当金の増加等により72億2百万円(対前期比9

億74百万円増)となり、特別損失に堆積場安定化工事引当金繰入額ほかを計上した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は42億54百万円(対前期比8億2百万円減)となりました。配当につきましては、期初予想の通り1株当たり5円とさせていただきます。



## TOPIC ユニック部門

### 人に、現場にもっと安心を——トラック搭載型クレーン『ユニッククレーン』をフルモデルチェンジ

2016年11月、需要のもっとも多い中型トラック搭載型クレーンをフルモデルチェンジし、次世代クレーン『G-FORCE』を発売しました。目指したのは“安心性能の追求”。新型の液晶ラジコンでは、吊り荷重の表示や加算機能などにより手で情報を「見える化」したほか、オペレーターの好みに応じた速度設定も可能に。さらに、クレーンの旋回、伸縮、巻上等の同時操作が難しい平行、垂直移動をスイッチ一つで可能にするなど、操作性を格段に高め、高度な制御技術により、作業効率を飛躍的に向上させました。また、低騒音・省エネ化等の環境性能も徹底追求し、現場や作業者への負担を大きく軽減しました。



## 会社概要及び株式の状況 (2017年3月31日現在)

### 会社概要

**古河機械金属株式会社 FURUKAWA CO.,LTD.**  
 ■創業 1875 (明治8)年8月  
 ■設立 1918 (大正7)年4月  
 ■資本金 282億818万円  
 ■従業員数 2,616名 (連結)  
 ■本社 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号 (丸の内仲通りビル)  
 電話 (03) 3212-6570 (代表番号)  
 電話 (03) 3212-6561 (法務部)

■中核事業会社  
 古河産機システムズ株式会社  
 古河ロックドリル株式会社  
 古河ユニック株式会社  
 古河メタルソース株式会社  
 古河電子株式会社  
 古河ケミカルズ株式会社

### 取締役及び監査役 (2017年6月29日現在)

代表取締役社長	宮川 尚久	常務執行役員	松戸 茂夫
専務取締役	松本 敏雄	上級執行役員	三村 清仁
常務取締役	岩田 穂	上級執行役員	荻野 正浩
常務取締役	松戸 茂夫	上級執行役員	阿部 裕一
社外取締役	吉田 政雄	執行役員	川下 勝平
独立社外取締役	友常 信之	執行役員	栗田 憲一
独立社外取締役	手島 達也	執行役員	大谷 敦
取締役	三村 清仁	執行役員	中戸川 稔
取締役	荻野 正浩	執行役員	村松 達之
常勤監査役	猿橋 三郎	執行役員	齋藤 雅典
常勤監査役	井上 一夫	執行役員	佐野 喜芳
社外監査役	上野 徹郎	執行役員	名塚 龍己
社外監査役	山下 雅之	執行役員	宮崎 宏之
		執行役員	高野 厚
		執行役員	宮嶋 健

### 株主メモ

- 事業年度の末日 3月31日
- 定時株主総会 6月
- 定時株主総会の基準日 3月31日
- 期末配当の基準日 3月31日  
中間配当を実施するときの基準日は9月30日
- 単元株式数 1,000株
- 公告掲載のホームページ <http://www.furukawakk.co.jp>  
(ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。)
- 株主名簿管理人・特別口座管理機関  
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社
- 郵便物送付先及び各種お問合せ先  
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 (0120) 782-031 (フリーダイヤル)

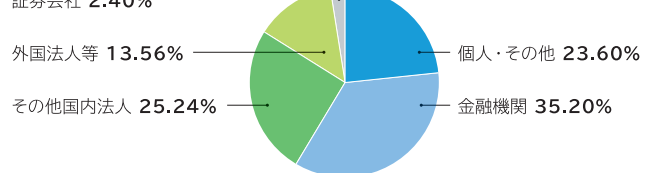
### お知らせ

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出について  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社に口座のない株主様につきましては、当社が特別口座を開設し管理していますので、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払いについて  
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### 株式の状況

株式	
発行可能株式総数	800,000,000株
発行済株式の総数	404,455,680株
株主総数	22,685名

### 所有者別株式構成



### 大株主(上位10位)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	26,540	6.56
朝日生命保険相互会社	23,734	5.86
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	23,104	5.71
清和総合建物株式会社	15,034	3.71
横浜ゴム株式会社	13,411	3.31
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	10,756	2.65
富士通株式会社	9,617	2.37
古河電気工業株式会社	8,777	2.17
富士電機株式会社	8,620	2.13
中央不動産株式会社	6,877	1.70

### 個人投資家の皆様へのホームページのご案内

当社ホームページでは、基本情報をはじめ、最新ニュースやIR情報など当社をより深くご理解いただくための様々な情報を提供しております。



「個人投資家の皆様へ」では、“分かりやすさ”をモットーに、数字や動画で当社の事業内容等を簡潔にご紹介しています。

WebサイトでもIR情報をご覧いただけます!  
株主・投資家情報ページ

<http://www.furukawakk.co.jp/ir/>

FURUKAWA 証券コード: 5715

# 株主の皆様へ

2016年4月1日 ~ 2017年3月31日  
第150期のご報告



## 特集 『中期経営計画2019』始動 ~新たな成長の礎を構築~

**理解促進コンテンツの紹介**  
 当社を知っていただくためのコンテンツとして、YouTubeに動画をアップしています。140年超の歴史と今を紹介する会社紹介映像や、インフラ整備に関わる機械製品群を紹介する映像等がご覧いただけます。

古河機械金属FKKplanet  
公式YouTubeチャンネル  
<https://www.youtube.com/user/FKKplanet>

Google 検索 FKKplanet 動画

“2025年ビジョン”を具現化する第1フェーズを——  
『中期経営計画2019』始動  
～新たな成長の礎を構築～



株主の皆様へ  
新中期経営計画策定のご報告

古河機械金属グループは、創業150周年を迎える2025年度に向け、2025年ビジョン「FURUKAWA Power & Passion 150」を掲げています。目指すは、“カテゴリートップ・オンリーワン”を基軸として成長する企業グループの実現。その達成のため、今後の9年間で3つのフェーズに分け、第1フェーズとして、2017～2019年度を対象とする『中期経営計画2019～新たな成長の礎を構築～』を策定し、新たな一歩を踏み出しました。

本計画には、「連結営業利益85億円程度」及び「ROE6～7%程度」という具体的な経営指標を盛り込んでいますが、見据えるのはさらに先にある“創業150周年のありたい姿”を実現することにあります。そのために当該期間においては、グループ内に「マーケティング経営※」を浸透させ、古河ブランドの価値向上を目指していきます。

また、本計画では、機械事業をコア事業と位置づけており、今後見込まれている建設関連の国内需要を確実に取り込むだけでなく、新たなビジネスモデルの構築や海外展開等も推し進め、各部門の基本戦略に則り新たな成長の礎を築いていきます。さらに、人材基盤の拡充・強化や企業価値向上に資する投資等の積極的推進、経営基盤の整備、開発推進体制や本計画推進の体制づくりなどにも意欲的に取り組んでいく所存です。

変わり続けるこれからの古河機械金属グループに、どうぞご期待くださいますようお願い申し上げます。

2017年6月

代表取締役社長

宮川尚久

※マーケティング経営  
マーケティングを経営の根幹に据え、激変する市場の中で価値を認められる製品やサービスを提供するとともに、顧客が抱えている課題や問題を見つけ出し解決することにより、顧客との絆を深めながら、持続的に成長し価値を高めていきたいとの意を込めた言葉。

『中期経営計画2019』の位置づけと骨子



2025年ビジョン「FURUKAWA Power & Passion 150」

カテゴリートップ・オンリーワンを基軸として成長する企業グループの実現  
2025年度（創業150周年）に向けて、連結営業利益150億円超の常態化を目指す

2025年度

第1フェーズ (2017-2019年度) 中期経営計画2019 ～新たな成長の礎を構築～

経営指標 (2019年度マイルストーン)

- ・営業利益85億円程度
- ・ROE6～7%程度

前提条件 (2019年度想定)

- ・為替 110円/USD  
115円/EUR
- ・LME銅価格 6,000USD/t

第2フェーズ (2020-2022年度)

成長の加速と更なる収益性の向上

第3フェーズ (2023-2025年度)

“2025年ビジョン”実現への総仕上げ

事業戦略 古河ブランドの価値向上を目指して、当社グループ内において『マーケティング経営』を浸透させていきます。さらに、機械事業をコア事業と位置づけ「機械事業の持続的拡大」を図ります。

機械事業 目標営業利益62.5億円

交通インフラ、国土強靱化計画、地方創生、東京五輪等に関連した国内需要を確実に取り込み、各部門の基本戦略に則り新たな成長の礎を構築していきます。

産業機械部門 目標営業利益12.5億円

セクションプラント工事業の取り込みやコントラクター事業の拡大を図る等、単なる機器メーカーからの脱却を目指して、エンジニアリング力の強化を図り、国内市場における事業基盤の拡充に取り組む。

ロックドリル部門 目標営業利益16億円

ライフサイクルサポート機能の強化による、フロービジネス（製品販売）・ストックビジネス（アフターマーケット）両輪での収益拡大と、ドリル製品群の収益基盤の強化を目指して、国内サービスサポート体制の充実と海外販売チャネルの確立に取り組む。

ユニック部門 目標営業利益34億円

国内販売での安定的な収益確保とストックビジネス及び海外販売での収益拡大を目指して、ユニッククレーンの高機能化・高付加価値化などの差別化による競争力強化、中古ビジネスの推進、海外の販売店網の再整備と販売力強化に取り組む。



ベルトコンベヤ



油圧クローラドリル



ユニッククレーン

素材事業 目標営業利益14億円

金属部門 目標営業利益7億円

収益体質の向上を目指して、採算重視の最適生産・販売体制の確立に取り組む。

電子部門 目標営業利益3億円

強い電子部門の復活を目指して、成熟製品から戦略製品への移行に取り組む。

化成品部門 目標営業利益4億円

既存事業の変革と新規事業の確実な収益確保を目指して、既存製品の収益拡大と、新規開発製品の早期事業化・育成に取り組む。

不動産事業 目標営業利益10億円

収益基盤の強化を目指して、室町古河三井ビルディングの安定収益確保と、当社グループが保有する不動産の有効活用に取り組む。

開発推進体制

- 各事業部門と開発本部とが一体となり開発を推進。
- 機械事業では、視覚・聴覚センシング、AI、通信ネットワーク技術等を活用し、自動運転やロボット化等の自律化した製品の実用化に取り組む。

人材基盤の拡充・強化

- より一層の人材育成と、働き方改革、ダイバーシティの推進に取り組む。

企業価値向上に資する投資等の積極的推進

- コア事業と位置づける機械事業を中心に160億円程度の設備投資を実施。
- 機械事業の強化につながるM&A、アライアンスを検討。

経営基盤の整備

- ROE6～7%程度を目指し、効率性・収益性改善の取り組みを強化。
- 連結営業キャッシュ・フローは、有利子負債の削減、設備投資、配当に配分。
- 配当は1株当たり5円及び連結配当性向30%以上を目標。

中計の推進体制

- 執行体制・責任体制を確立。
- 業務改革推進室を新設し、業務の標準化・効率化、生産性向上、業務プロセス再構築等を行う。
- 機械事業の海外戦略、ストックビジネス、M&Aは専任チーム等にて推進。

第1フェーズでは  
機械事業をコア事業  
と位置づけ  
「機械事業の持続的拡大」  
に取り組む

2020年  
3月期

連結営業利益85億円程度

機械事業  
73%

2026年  
3月期

連結営業利益150億円超の常態化

※新中期経営計画の詳細情報につきましては、当社ホームページの「株主・投資家情報」(経営計画 <http://www.furukawakk.co.jp/ir/policy/tyukei.html>)をご参照ください。